

おかだ耕一

後援会会報

通巻 No.10

2001.4.15

発行/おかだ耕一後援会

豊田市宝来町4-758-141

TEL・FAX/88-9194

世話人代表/久保仁勇



市民の皆様、地域の皆様、友の会会員の皆様、いつもおかだ耕一の活動に対しましてご理解、ご支援頂きありがとうございます。平成13年度の予算を決める重要な豊田市議会3月定例会も3月2日から21日までの会期で開催され、多くの議案が決定されました。

特に今回は、そごう閉店に伴う中心市街地活性化問題について審議され、松坂屋誘致のための受け皿になる第3セクターの資本金3億円の出資と、貸付金48億円の補正予算も可決いたしました。この問題について語るには紙面が足りませんが、ぜひ多くの皆様と今後も中心市街地の活性化問題について議論していきたいと思っています。

そして、今後も市民本位の市政の実現を目指し、政党、組織に縛られない無所属市民派議員として皆様の声援を頼りに頑張ってまいります。

豊田市議会議員 岡田 耕一

おかだ耕一 市政報告会を開催

3月25日(日)19時から第一宝来集会所にて市政報告会を開催。

次のような内容の報告がありました。

- 議会、議員活動について
- 豊田市における緊急課題について
 - ・そごう問題を含む中心市街地活性化問題
 - ・加茂病院新築移転問題と市民病院ができない理由
 - ・豊田スタジアムオープンと運営赤字、建設費増額問題
- 後援会の設立について 等



●天候の悪い中、多くの方にお集まりいただきました

今後も各地で定期的開催したいと思います。※少人数でもOKです。ご連絡ください。

岡田耕一友の会会員の皆様へ

いつもお世話になっています。おかだ耕一君が昨年2月に51,265(耕一に向こう)という票数で市議会議員に当選してから地元としてもしっかり応援していこうと昨年10月くらいから後援会の設立準備をしてまいりました。

おかだ市議の活動としては、新聞、広報、友の会会報やひまわりCATVでも皆さんご存知かと思いますが、市民クラブという1人会派で孤軍奮闘されています。今後も行政の監視役として長く活躍してもらうためにも地元の皆さんとともにしっかり応援していかなければなりません。そこで、今後、地元密着の「おかだ耕一後援会」として後援活動をしてまいりますのでよろしくお願いいたします。

また、後援会活動は地元中心となりますが、おかだ市議の活動スタイルは地元だけに留まりませんので市全域の支援者の皆様にも今後とも引き続きご支援よろしくお願い致します。

おかだ耕一後援会 世話人代表 久保 仁勇



無料法律相談のご案内

日時 / 5月12日(土)

6月 9日(土)

7月14日(土)

時間 / いずれも
午後1時30分～3時

場所 / 豊田産業文化センター
4階にて

問合せ / 豊田市議会議員
岡田耕一
TEL 88-9194

弁護士に無料で相談できます。予約制ではありませんので、しばらくお待ちいただくことがあります。ご了承下さい。

あわせて、行政相談も実施しておりますのでお気軽にお越し下さい。

豊田市議会 3月定例会 会期/3月2日～3月21日

71議案+3議員提出議案等について審議 私は71議案に賛成、3議案に反対（本会議では全74議案可決）

- ◎ 豊田市報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例に反対
低迷する経済情勢、東海豪雨の災害復旧、そごう閉店による雇用問題や中心市街地活性化問題を抱える豊田市において、この時期における議員報酬増額（4,000円/月）は市民理解が得られない。
- ◎ 経済情勢の変化に伴う中心市街地の商業等の活性化に関する条例に反対
中心市街地の商業の活性化を理由に第2、第3のそごう問題が出てきた時にも同様に公的資金を投入できてしまうこの条例には強く反対。
- ◎ 平成12年度豊田市一般会計補正予算（48億円+3億円）に反対
駅西再開発ビルの取得費等に投入する市税48億円は30年後には完済されるとしているが、経済情勢が不透明な中、完済される可能性は極めて低い。また、特に高岡、上郷地域の方々の市民合意は得られていない。

中心市街地活性化策に対する「おかだ耕一議員の考え」

- そごう跡の駅西再開発ビルに百貨店を誘致することについてどう考えるのか。
▼現在の行政、商業の中心であり市民が望む形で誘致するのであれば大賛成。しかし、商行為はあくまで民間主導で進めるべきであり、市税を投入すべきでない。
- 多くの市民が48億円の公的資金を貸し付けてでも百貨店を誘致すべきとの声があるが。
▼広報紙での説明では48億円は30年以内に返済完了としているが、それは、後継テナントが30年間、当初の賃貸料、契約内容で営業を継続することが大前提。5年後、10年後の経済情勢が不透明な今日、48億円が返済される可能性はきわめて低いと思う。私の調査でも賛成は48億円の完済が前提で、返済できないのであれば反対という方が多数という結果になりました。
- 貸付金が返済されなくても安全確保のために駅西再開発ビル全体に担保権を設定しているから大丈夫では。
▼15年後、20年後に残債分の担保価値があるかは疑問。市の所有になった後の駅西再開発ビルの大規模修繕費は市税で賄わなければならない。
- それでは駅西再開発ビルをそのまま放置していいのですか。
▼我が国は資本主義、自由主義国家です。自由競争の結果として栄える企業があれば衰退する企業があっても当然だと思うのです。雇用、失業対策としてのセーフティネットの必要性は考えなければいけません。特定の企業、エリアだけに優遇措置をとることは市民の絶対的な合意なくしてすべきではありません。今回のケースは、市民合意が得られたと思えないのです。
特に考えなければならないことは、この問題がなくて48億円あったら何を最優先すべきかということです。高齢者福祉政策なのか、保健医療問題なのか、公共交通対策なのか、道路整備なのか、少子化対策か、等々、豊田市にはまだまだやるべきことがたくさんあります。
人口35万人の中核市って都会ですか？このまちに全ての機能が必要ですか？確かに自動車産業の恩恵を受け財政的には恵まれています。分相応のまちづくり、各都市の機能分担を考える必要があるのではないのでしょうか。
豊田市の人口は35万人と聞けば大きな都市に感じます。参考までに近隣自治体の1km²あたりの人口密度で比較しますと、豊田市/1,207人、知立市/3,865人、一宮市/3,367人、春日井市/3,117人、三好町/1,359人。こういう状況です。都市化と人口密度の関係は必ずしも一致しないかもしれませんが豊田市の現状をよく認識するとともに、豊田市は挙母、高橋、上郷、高岡、猿投、松平という元々、歴史も商圏も違う自治体の合併都市であることを再確認する必要があるのではないのでしょうか。また、時代、時代の住民ニーズによって中心市街地は移り変わっていくという認識をもつことも必要なのではないのでしょうか。
しかし、最終的には市民一人一人がこの豊田市をどのような街にしていきたいのか考え、決定すべきだと思います。市長や議員、市役所、商工会議所等に任せってしまうのではなく、市民一人一人が問題意識を持ち、みんなで一緒にまちづくりをしていかなければならないと思っています。



●今回の51億円以外に駐車場整備費として数十億円も必要になる可能性も

議員になると考え方の同じ仲間とグループを作り、様々な議員活動を進めます。このグループを会派と言います。豊田市議会では会派(交渉会派)と認められるのは3人以上で、現在は思政クラブ(31名)、公明党(3名)の2つがあります。また、1人会派として無所属(旧民社系)、フレッシュ21、無所属、共産党がありますが、交渉会派でない各派代表者会議に出席できない等の制限があります。私はどの会派とも一線を置き、国政レベルの諸問題や政党間の利害関係に関係なく一貫して市民の立場で議員活動を行う為に市民クラブという会派を作り当面、1人で頑張っていくつもりです。

平成13年度主要事業の概要

●市制50周年記念行事

- ・豊田スタジアム建設 総事業費 44,788,142千円(13年度8,508,678千円)
現在、共同企業体(JV)から35億円といわれる建設費の増額請求がされています。
- ・スタジアムこけら落としイベント Jリーグオールスター戦など 148,579千円
- ・ヴァチカン美術館展(10月2日～12月25日)動物をテーマにした作品97点展示。415,574千円
広報とよたに2名分の招待券が付いてきます。

●とよた子育て総合支援センター機能の充実

担当/こども課

事業費137,729千円

4保育園併設の地域子育て支援センターとの連携によるファミリー・サポート・センター事業の拡大、子育て相談、子育て情報の提供や遊び、工作指導員の充実を図る。



●(仮)こども相談センターの整備(栄町1丁目、16年度オープン予定)

13年度事業費 27,840千円(地質調査・設計)

子どもや青少年に関わる総合的な相談機関を設置する。また、不登校児童生徒が早期に学校復帰ができるようにするための適用指導教室を設置する。

●放課後児童健全育成事業

事業費74,939千円(国庫補助金4,720千円)

授業終了後も保護者が家庭にいない児童の遊びや生活の場を提供し、健全育成を図る。

新設校=山之手小、平井小、竹村小 合計23ヶ所になります。

時間=授業がある日 授業終了後～18:00

長期の休み 8:00～18:00

※開設曜日はいずれも(月～金)、冬・春休みについては13年度より新規

●幼稚園預かり保育事業

事業費 5,846千円 お仕事等をされている保護者の子育ての支援をする。

3歳児の預かり保育 / 東丘、拳母、上郷、美山幼稚園 4,5歳児の預かり保育 / 朝日幼稚園、平山幼稚園

時間はいずれも(月～金)一斉保育終了～17:00 (第2,4を除く土曜日)8:30～11:00 (3歳児のみ春・夏・冬休み)8:30～17:00

※開設曜日はいずれも(月～金)、冬・春休みについては13年度より新規



●河川防災ステーション イメージイラスト

●河川防災ステーションの整備(森町1丁目、豊田スタジアム南) 担当/防災対策課

13年度事業費 196,260千円(総額409,080千円)

矢作川水系付近の住民の生命と財産を守るため災害拠点施設として整備する。

13年度 防災ヘリポート、土砂備蓄スペース、防水用樹林、緊急活用道路など

14年度 防水センター(鉄骨造2階)、[水防資機材倉庫、学習展示室、水防情報]

●特別養護老人ホーム建設

(今町地内、定員80名、14年度開所予定)

建設費補助金160,937千円

●老人デイサービスセンター建設

(市営東山住宅H棟1階、定員30名、15年度開所予定)

13年度事業費 9,000千円

●特別養護老人ホーム&知的障害者通所更生施設用地(中根町)

取得及び造成工事(土地開発公社対応)



●市営東山住宅老人デイサービスセンター建設予定地

3月定例会 一般質問

私は、全国各地で次世代型清掃工場として建設が検討されていると同時に多くの問題点が指摘されている熱分解ガス化溶融炉の問題点と具体的なごみ減量策について質問しました。(答弁は、全て加藤清掃部長)

- Q ダイオキシン類、有害重金属類、二酸化炭素の排出量は、現行のストーカ炉と比較し、どこまで優れているのか。
- A ダイオキシン類が発生しにくいシステムで、現在稼働している施設の排出濃度は、基準値0.1ngTEQ/m³N。重金属類についても排出基準以下。二酸化炭素についても処理方式に差はなくごみ1t当り2,442kg CO₂/t。
- Q メーカーの実証試験は、連続30日を含む、100日稼働で第三者機関の認証が取れてしまう。実証炉(20t前後)からスケールアップした場合の絶対的な安全性は証明できていない。それに100t以上の本格的な炉が稼働して1年という実績しかない。万一、想像もできない事故が発生した場合の対処ができないのではないか。本当に安全といえるのか。また、性能発注による契約のメーカー保証の内容は。
- A 現在、熱分解ガス化溶融炉は2施設稼働しており安全性を確認している。例えば停電等緊急時の対応は非常用電源に自動的に切り替え、緊急停止操作後、安全に停止するシステムになっている。性能保証については、十分な担保を取るよう発注仕様書を作成するとともに所定の性能が担保されなければ引渡しには応じない。
- Q 現在は、実績作りのため非常に安く落札しているが、ガス化溶融炉方式にした場合の建設費等の初期投資額は、どのくらいになり、ストーカ炉と比較して有利なのか。
- A 受注実績では、ガス化溶融炉は、1t当り2,700万円から6,400万円。ストーカ炉+灰溶融については1t当り4,800万円から7,200万円。
- Q 新清掃工場は、25年間使用するということが、ガス化溶融炉方式にした場合のランニングコストと耐久性は本当に優れているのかどうか。
- A 新清掃工場は25年稼働を想定。熱分解ガス化溶融炉は、処理工程の大部分をごみの自己エネルギーで賄い、運転人員も従来型に比べ少ないため維持管理コストは低くなると思われる。
- Q 新清掃工場では、今後、何を焼却するのか。
- A 資源化施設で資源を取り除いたあとの可燃ごみと現在は、埋め立て処理している硬質プラスチック、粗大ごみの破碎残渣を焼却する。
- Q 溶融スラグは路盤材等に使用されるといわれるが、リサイクルされた「廃コンクリート」で十分足りている。高いコストをかけてできたスラグの使い道がないのではないのか。
- A 溶融スラグは路盤材等に有効利用する。
- Q 国の溶融スラグに含まれる重金属類の溶出試験では『PH5.8～6.3の水溶液に6時間浸ける』ことになっているが、実際にはPH3～5レベルの酸性雨が降っている。他の自治体でも別に厳しい溶出試験を実施するところもある。酸性雨の進行とともに10年後、20年後にどのような問題が発生するか分からない溶融スラグを路盤材に使用すべきでないと思うがどうか。
- A 安全性についてはスラグを利用している都市の実績では土壌の環境基準を満たしている。
- Q 従来型のストーカ炉と比較しあまりに実績が少ないガス化溶融炉を先行導入した他の自治体において安全性に疑問が出た時、市として、どう対応するのか。
- A 現在稼働している炉とこれから竣工予定の炉の状況を参考にする。
- Q H19年に稼働させるためには13年8月までに事業計画を作成、そのために年度内に方式を決定したいと言われたが、減量化を徹底的に進めればH20年以降も渡刈清掃工場ですら十分対応できる。現に埼玉県川口市では38年間使う清掃工場もある。そして、熱分解ガス化溶融炉方式の安全性が確立されるまで現工場で対応し、万一、安全性に疑問があれば現行のストーカ炉方式を採用すべき。処理能力にしても減量化が進んだ段階のごみ量で新清掃工場を建設すべきだと思うがどうか。
- A 現施設の老朽化と将来のごみ量から新工場はH19年稼働が必要。そのため、13年8月までに完成させなければならない環境アセスの準備書の事業計画に反映させる必要がある。



●現在のストーカ炉方式の渡刈清掃工場



●道路の路盤材として使用して本当に将来にわたって安全といえるのか？

定例会ごとに質問、答弁を含め、個人に20分、会派に10分割り振られます。
 単位時間は30分または60分で毎回質問する私には市民クラブとして時間が答弁を含め30分、実質15分しか与えられていません。
 また、答弁に納得できない時は、時間内であれば、あと2回質問できます。

- ◎ 豊明市では、全世帯の生ごみの分別収集、生ごみたい肥化の実用化にめどをつけたそうだが、豊田市における市民も巻き込んだ可燃ごみ、埋めるごみの具体的な減量化策、排出抑制策は。
- ▲ 現在実施している分別収集、古紙類回収や生ごみ処理機の普及に努める。今後の具体策については市民の声を聞き、プラスチックと紙製容器包装の分別収集を実施したい。しかし、分別やリサイクルでは限界があるためメーカー、販売店にはリサイクルしやすい商品の開発、過剰包装の廃止等を働きかけ、市民サイドにはごみになるものを家庭に持ち込まないライフスタイルの啓発をしたい。
- ◎ 新清掃工場建設問題も含め、廃棄物行政全般に対する全市民への広報活動、公聴活動や市民参画によるごみの減量化の取り組みについての考えは。
- ▲ ごみの減量、適正処理は、市民の協力なくして成り立たない。地域の研修会や広報紙を利用してごみ減量に対する意識を高めてもらう努力をしていく。

(再質問)

- ◎ 溶融スラグの安全性と利用についての答弁は理解できない。
- ▲ PH3～4レベルで試験しているところもあり安全と言える。
- ◎ 認証を取得したメーカーへ(財)廃棄物研究財団が発行した廃棄物処理技術評価書を読むと安全性については、実用施設での爆発の危険性や延べ100日を超える実証試験期間中の多くのトラブルを指摘している。スケールアップについても全てに前提条件がつき、これらがクリアできる保証がなく、実用レベルでないことを指摘しており、本当に安全と言えるのか。
- ◎ ランニングコスト面では、常に補助燃料を使用していたことが記載されているがどうか。
- ◎ 耐久性、メンテナンス性についてもまだまだ実用レベルでないことを指摘し、視察先のメーカー技術者も耐用年数は15～20年と言っているがどうか。
- ◎ ダイオキシン類濃度についても再合成を考慮し、適切な排ガス処理システムをこれから構築する必要があると指摘。とするならばストーカ炉にバグフィルターを設置するのと変わらないのではないか。
- ◎ 千葉県柏市では、ガス化溶融炉を採用しない理由として技術審査委員会が理論的には最も合理的な処理方式の一つであるが、実際のプラントでは稼働実績がなく、スケールアップ後の安定稼働性の事前判断が難しいと述べているがどうか。
- ▲ その他、明快な答弁なし



(再々質問)

- ◎ 再度の答弁でも説明いただけないものもある。現行のストーカ炉では補助燃料をほとんど使っていないのに新方式の炉では補助燃料を多用する可能性がある。本当にランニングコストは高くないか。耐用年数も本当に25年も持つのか。
- ▲ 補助燃料を使うのはごみの種類・質による。コストは心配していない。耐用年数25年は必須条件でメーカーと契約する。



●ひたちなか市の実証(試験)プラント

一般質問を終えて

今回は、海外で事故を起こすなど問題の多い次世代型の新型清掃工場の問題点を列挙し、少しでも疑問が解消されるように願ったが、明快な回答は得られなかった。今議会での唯一の進展は、私が問題提起をし、諸派議員4名でこの新清掃工場建設問題に対して議会でしっかり審議しようと申し入れた結果、市民経済委員会で継続して審議されることになったくらい。私は、所属委員ではないので委員外議員として発言を求めつつも、(委員が発言を認めない可能性もありますが)

ここが聞きたい！ 議員？ 豊田市政？

ここでは、一般的な議員、市議会、また豊田市政に関する質問をQ & Aという形でおかだ耕一市議が答えていきます。

◎ よく議員が活動するために給料以外に多くのお金をもらっていると聞きますが、いくらもらっているのですか。
また、ちゃんと使われているのでしょうか？

▲ 私たち議員は、日々の生活の糧にさせていただいている「議員報酬」とは別に議員活動の調査研究や政策形成能力の向上のために必要な経費の一部を補助していただくための「政務調査費」が1人当り年額38万円を限度に交付されます。
豊田市議会では、13年3月定例会にて豊田市議会政務調査費条例を可決、施行し、収支報告書及び領収書も合わせて提出するようになっていますし、市民の閲覧も可能です。
私も12年度は、371,618円を視察や研修会参加費に使わせていただきました。
報告書につきましては、希望者にE-MAIL、FAX、もしくはコピーを配布いたしますのでご連絡ください。

スタジアムの建設費増額は許せない！

豊田市が現在建設中の豊田スタジアムをめぐる建設を請け負っている大成建設など6社の共同企業体(JV)が、市に対して35億円とも言われる建設費の増額請求に対して、**おかだ耕一議員**が代表を務める「サッカー場問題を忘れない!とよた市民の会(略称:市民の会)」が3月22日、鈴木公平豊田市長宛てに**豊田スタジアム建設費増額に関する公開質問状および申し入れ書を提出**。



●豊田大橋に当初予算より10億円追加、今度はスタジアムに35億円追加か。どちらも黒川紀章氏の作品

- 内容は
- ▼スタジアムの本体工事を請け負っている共同企業体と請負契約締結時から何回も設計変更に関する協議が行われたと言われるが、その設計変更の日時、協議の経過および変更された工事内容を、具体的に分かりやすく明らかにすること。また、それらの設計変更に設計会社は、どんな関与をしたのか、あわせて具体的に説明すること。
 - ▼その設計変更に関し、当初予定されていなかった可動式屋根や大型スクリーンの設置は、どのような影響を与えたのか。
 - ▼これまでの設計変更に関し、設計会社の責任はないのか。
 - ▼平成11年3月と平成12年3月での設計変更協議において、JV側が契約金額の増額を求めたのに対し、市当局は減額すべき根拠を主張して、結果として双方の主張を相殺することで、契約金額の変更はなかったとのことだが、その交渉でのやり取りを議事録を再現する形で明らかにすること。
 - ▼これまでは、契約金額の変更を含む契約変更はなかったと言われているが、現時点で、契約金額をめぐって市当局とJVとで、どのような交渉がされているのか。双方の主張を解釈を加えることなく列記し、主張の対立点を市民に明らかにすること。
 - ▼当会は、当初の請負契約が正当なもので、JV側も自信をもって契約に応じたものであると信じていたし、ましてや、市当局から「将来は増額要求にも相談にのる」というような裏約束があったとは考えたくない。したがって、当初契約が粛々として履行されるのが当然のあり方であると考え。その意味では、この問題が、市当局とJVとの交渉事になっていること自体が理解できない。現実には交渉の一方の当事者になっている市当局としては、何を望ましい解決策と考えているのか根拠と見解を明らかにすること。

〔申し入れ事項〕

1. 建設会社からのいかなる契約金額の増額要求にも応じないこと。
2. もし、増額要求に応じた場合には、そうせざるを得なかったことに対する責任を明確にすること。すなわち、市当局に原因があったとすれば、その責任者を明確し、厳正な処分をすること。また、設計会社に原因があったとすれば、設計会社に対して直ちに法的な損害賠償を要求すること。

お詫び

前号(友の会会報9号)の送付が遅れましたこと、会員の皆様には謹んでお詫び申し上げます。今後は、できる限り早めの郵送に心がけますのでよろしくお願いいたします。
また、会報郵送事務のお手伝いいただける方も募集しておりますので合わせてお願いいたします。

皆様のお力をおかだ耕一後援会へ、お貸しください。

- ・会報編集(原稿作成、レイアウト編集、校正)
- ・ホームページ作成
- ・会報手配り(50~500部程度の各戸配布)
- ・会の運営(企画、立案)
- ・会報郵送準備(封筒へ宛名貼り付け、会報折り込み)

岡田耕一友の会 平成12年1月1日~12日31日の収支報告

収入の部	金額
11年からの繰越額	855
個人からの寄付(延べ36名)	130,471
個人からの寄付(岡田耕一)	200,000
団体からの寄付(豊田加茂県政研究会)	500,000
預金利子	1
合計	831,327
支出の部	金額
消耗品・備品	21,119
機関誌の発行	168,413
寄付・交付金	100,000
借入金返済	400,000
支出合計	689,532
13年への繰越額	141,795

岡田耕一友の会会員の皆様へ

岡田も議員となり1年が経過し、今まで以上に多くの皆さんに支えていただく重要性を強く感じています。そこで若手を中心とした岡田の後援組織である友の会を岡田耕一後援会と名称変更し、地元の方々を中心として支援くださる会にしたいと考えました。我々若手は、側面から支援していきたいと考えております。また、友の会の名称は、引き続き任意団体として存続させるつもりですのでよろしくお願いたします。また、「岡田耕一友の会会報」をこの10号より「おかだ耕一後援会会報」とさせていただきますのでご報告いたします。

岡田耕一友の会 会長 松田 不二男

市政に関する様々な疑問、質問、要望等お気軽にご相談ください。

連絡先

TEL・FAX/88-9194

<http://www.hm.aitai.ne.jp/~ko-okada/>

E-mail: ko-okada@hm.aitai.ne.jp

100%古紙再生紙を使用しています。